

平成30年度 第1回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 平成30年6月25日(月) 10:00~12:05
- 場 所 公立鳥取環境大学 小会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、今井正和委員、大田斉之委員、
若原道昭委員、林昭男委員、山田修平委員、米田裕子委員
[8名/10名]
北野彬子監事、小谷昇監事 [2名/2名]
- 欠席者 藤縄匡伸委員、山田憲典委員

冒頭に理事長の挨拶があり、その後、新任の委員がおられるため、各委員及び監事が自己紹介を行った。

また、副理事長から、第2期中期目標・中期計画期間の開始にあたり、本学がおかれている状況や本学が掲げている計画に対する取組み状況等についての説明があった。

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 議長の職務代理者の事前指名について

理事長から、経営審議会規程に基づき、理事長に事故があったときは副理事長が議長の職務を代理することの説明があり、また副理事長に事故があったときの議長の職務代理者については大田理事が指名された。

3 審議事項

(1) 平成29年度決算について

事務局長から平成29年度決算についての説明、北野監事から監査報告があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・人件費比率が上がったのは、なぜか。
 - 退職者が昨年度末多かったのが大きな要因。また、分母となる経常経費については、28年度はハード事業の諸経費、関連経費が含まれていたが、29年度は少なくなったことも要因。
- ・人件費比率の計算に毎年度支給金額が変動する退職金等が含まれていると、本来の経常経費の変動が見えづらくなる。資料として、ST費(学生数/教員数)とかも目安になると思う。
 - 他大学も調べて、今後は、もう少し傾向が分かり易いデータを用意したい。
- ・人件費比率の母数の方に、臨時的で高額な機器整備等の経費を単年度にもってくると経営を考える資料として現実的ではない。資料整理をお願いしたい。

(2) 平成29事業年度に係る業務の実績について

事務局長から、平成29事業年度に係る業務の実績について説明があり、原案のとおり承認された。

(3) 平成30年度第1回補正予算について

事務局長から、平成30年度第1回補正予算について説明があり、原案のとおり承認された。

(4) 翌年度以降の債務負担行為について

事務局長から、翌年度以降の債務負担行為について説明があり、原案のとおり承認された。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員就業規則等の一部改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学職員就業規則等の一部改正について説明があり、原案のとおり承認された。

(6) 公立大学法人公立鳥取環境大学組織規程等の一部改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学組織規程等の一部改正について説明があり、原案のとおり承認された。

(7) 学長選考会議委員の選任について

(報告事項のあとに、理事長退席の上、審議を行なった。)

副理事長から、学長選考会議委員の選任について説明があった。学長選考会議委員に西山副理事長、大田理事、林委員が推薦され、承認された。

4 報告事項

(1) 監事監査規程に規定する回付文書及び調査文書に関する定め of 制定について

事務局から、監事監査規程に規定する回付文書及び調査文書に関する定め of 制定について報告があった。

(2) 平成31年度入試概要について

事務局から、平成31年度入試概要について報告があった。

(3) 中央大学、鳥取県との連携協定について

事務局から、中央大学、鳥取県との連携協定について報告があった。

(4) 近況報告

事務局から、入試、就職活動など大学の近況について報告があった。

5 閉会